

投稿 安全で安心な地域づくりを目指して③ 「まつばら防災福祉マップ」を作成しました

松原区自主防災協議会では、独自の取り組みとして「災害時要支援者データ集約事業」に取り組んできました。これまでに、平成 29 年 1 月に協議会独自で「災害時要援護者リスト」を作成しました。さらに、平成 30 年 6 月には町と区の共同で「災害時要支援者リスト」を作成しました。

2 回のリスト作成を通じて得た情報を、自治会単位で「まつばら防災福祉マップ」にすることで、情報を集約し、災害発生時に要支援者の避難誘導に役立てようというものです。

自主防災協議会では昨年 11 月 25 日に、「まつばら防災福祉マップ」づくりを行いました。自主防災協議会の幹事のほか、見守り協力員・災害時支援員や民生委員、町健康福祉課、町社会福祉協議会、地域包括支援センターの職員の協力を得て、マップづくりの作業に入りました。

作業は、参加者を 3 つのグループに分けて、これまでに収集した情報をもとに、高齢者や障がい者、要介護者など該当する世帯を蛍光ペンで個別に色分けをし、それに避難時に必要な補助具があれば赤ペンで書き加えるという方法で行いました。さらに、参加者からの新しい情報も加えられ、より細かい情報によるマップが完成しました。

来年度は、今回のマップに、自分の住んでいる地域が災害に対してどのような状態にあるかを診断し、整理した記録をマップ化した「防災情報」を付け加える作業と、要支援者を平常時に地域で支える組織づくりを進めていきます。

なお、松原区では、この事業を平成 29 年度から「地域福祉活動計画」として位置付けて取り組んでいます。

松原区長 富田英俊



投稿 県老人クラブ広報誌コンクール「潤島福寿会会報」が最優秀賞に

潤島福寿会が定期的に発行している「潤島福寿会会報」を栃木県老人クラブ連合会主催の第 9 回老人クラブ広報誌コンクールに応募し、初応募で見事最優秀賞に輝きました。9 月 6 日、宇都宮文化会館で第 32 回栃木県老人クラブ大会が行われ、国会議員・県知事・県議会議員を始め県内各地から約 400 名の会員が参加し、盛大に行われた表彰式で表彰を受けました。

これは会報の内容のほか、活動内容の情報共有を通じて会員相互の絆を深めるだけでなく会員以外への周知によるクラブ活動への理解促進等、明確な発行方針が評価されたものと思われ、会員の喜び・誇りは勿論、会の更なる充実と飛躍に功を奏するものと思われま。

潤島福寿会 須田成治

